

今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）記録要旨【宮古ブロック】

平成27年8月11日（火）

シートピアなあと 2階研修ホール

【石原 田野畑村長】

- ・これまでの高校再編で統合した地域において、保護者の経済的負担の状況や生徒の高校選択肢がどのように変わってきているか等について、県ではどのように把握しているか。

【県教委】

- ・岩泉高校田野畑校の統合にかかる県の対応としては、通学支援として、保護者団体が運営する通学バスに対して、県が2分の1の経費負担をしており、田野畑村から岩泉高校に通いたいという生徒に対しては、手当てができていないものと認識している。また、これまで田野畑校の統合により地元で高校がなくなったことによって、高校に進学することができなかった生徒はいないものと考えている。
- ・田野畑村の中学生の他ブロックへの進学状況については、参考資料6にある通り、宮古ブロックに約5割、久慈ブロックに約2.5割、盛岡ブロックに約1割となっている。盛岡ブロックの高校に進学した生徒達は下宿等をしながら高校に通学しているものと思われる。

【中居 岩泉町副町長】

- ・第1回目の地域検討会議でも小規模校に対する配慮はかなりされていると感じていたが、全県的には小規模校に対する評価はどうなっているか伺いたい。

【県教委】

- ・昨年度実施した今後の高等学校教育の基本的方向(改訂案)に対するパブリックコメントでは、1,000件を超える意見をいただいております。その中で、小規模校の存続に関する意見は約200件あった。こういったことを踏まえて、小規模校については、教員の相互派遣や校舎制、ICTの活用等、様々な取り組みを検討し、教育の質の保証を確保するにはどうすればよいか意見を伺っているところである。また、学校配置については、県内一律の基準で統廃合を行うものではなく、地域の意見を丁寧に向かい、通学の状況等も確認しながら検討していくこととしている。そうした考え方にに基づき、地域検討会議で意見を伺っているところであり、教育の機会の保障を確保しつつ、教育の質の保証をどう図っていくか、御意見をいただきたい。小規模校を維持する場合、教育の質の保証を担保するために県でも努力はしていますが、各市町村との連携協力について様々御意見等をいただければ幸いです。

【石原 田野畑村長】

- ・教育の機会の保障、教育の質の保証、地域経済、通学支援と4つに分けた場合、県ではどれに重点を置いて高校再編を進めようとしているのか伺いたい。

【県教委】

- ・地域によって、通学等、交通事情は異なるので、県内一律の基準で高校再編を実施するわけにはいかない。地域の状況を確認しながら検討していかなければならないと感じている。地域にとって高校の存在は大きいという意見を十分踏まえながら、生徒にとってよりよい環境はどうあればよいかということを考え検討してまいりたい。

(次頁に続く)

【石原 田野畑村長】

- ・この地域検討会議は、市町村との連携・協力を目標としたもので、高校の数を減らすものではないと認識してよいか。

【県教委】

- ・第2回地域検討会議の協議内容としては、市町村との連携・協力の在り方を議論していくものではあるが、再編計画を示す段階では、この先5年間の具体的な再編案とその後5年間の基本的な見通しを示す予定としている。したがって、今後の生徒減少に対応しなければならないことから、全く再編をしないということではない。参考資料5に示した通り生徒減少はどの高校にも影響が及ぶと考えられる。このままだと、地域の中心校でも学校規模が小さくなり、大学進学に対応した教員配置が難しくなる。このようなことになれば、さらに他ブロックへの流出が懸念される。ある程度の学校規模を維持するには、地域として学校・学科の配置がどのようにあればよいか等、地域の意見を十分伺いながら、検討を進めていかなければならないと考えている。

【山本 宮古市長】

- ・宮古ブロックは2つの視点で高校再編を考えていく必要がある。一つは、宮古ブロック内における普通科、専門学科等のバランスの取れた高校配置はどうあればよいか、二つ目は、山田町や岩泉町の高校の在り方はどうするかである。
- ・宮古市内にある普通高校や専門高校はいずれ再編をしていかなければならないだろう。高校自体の再編なのか学科の再編なのかを十分検討し、子ども達にとってよりよい環境を作っていかなければならないと感じている。山田町や岩泉町にある高校は町に一つしかない高校なので、町の意向を十分に尊重しながら、機械的な高校再編は行わず段階的に検討していくことが必要と考える。

【甲斐谷 山田町副町長】

- ・山田町出身の中学生は、宮古市内の高校に3分の2の生徒が進学し、山田高校には3分の1の生徒が進学している。山田町には普通高校があるにもかかわらず、なぜ宮古高校に進学するかというと、宮古高校は大学進学で実績を上げているからである。盛岡一高に進学する例も同じである。こうした現状の中で、山田高校が魅力ある学校づくりに取り組むことにより山田高校への進学者が増えた場合、宮古市内の高校に進学していた生徒が減ることになる。魅力ある学校づくりは生徒の奪い合いにつながるので、ブロック全体のバランスを考えた高校配置を検討しなければならないのではないか。いずれ、少子化の影響により高校の統廃合を検討しなければならない時期が来る。みんなで考えていかなければならないと感じている。

【伊藤 宮古市教育委員会教育長】

- ・中学生が高校を選択する場合、部活動を理由とする割合が大きく、魅力ある学校にするためには部活動や生徒会活動を活発化させることが必要である。そのためにはある程度の学校規模は必要であり、本日示していただいた校舎制を含め検討していくことが必要であろう。資料6に学校統合のイメージがあるが、これまで統合した学校、例えば、高田高校や大船渡東高校等の事例を精査しながらメリット・デメリットについて具体的に示し、今回は、その資料を基に高校の在り方について選択肢を絞っていく方向にしてはどうか。これからは高校の存続ということではなく、魅力ある学校とはどういうものかを議論していくべきと考える。

(次頁に続く)

【佐々木 山田町教育委員会教育長】

- ・宮古ブロックについては、広域に考えるべきこと、宮古市内の高校の再編をどうするかという2点について第1回の会議でもお話した。高校配置等の枠組みや条件については行政の責任であるが、魅力ある学校にしていくためには、生徒の意見を取り入れていくことも必要と考える。高校の魅力づくりの推進については、町としてもバックアップしていきたい。
- ・宮古ブロックはバランスの良い高校配置となっているが、これをどうスリム化していくかが課題と考える。広域で考えた場合の市町村の役割の方向性は見えてきたのではないかと。次回の会議では、より、具体的な案を示して議論していくことが必要と考えている。

【三上 岩泉町教育委員会教育長】

- ・今後は、交通事情の良くない小規模校の在り方をどうするかが問題になっていくのではないかと。そうした場合、地域検討会議とは別に、教育の機会の保障や通学支援等の各論について議論する場を設定することを考えているのか伺いたい。

【県教委】

- ・教育の機会の保障や教育の質の保証に向けた取り組みについてもっと掘り下げていくべきという御指摘については、その通りであると感じている。どのような組織で検討するかということについては今のところ具体的な考えはないが、いずれこの課題は地域検討会議のみならず、県立高校長との意見交換会や各市町村と個別に意見交換させていただきながら、課題解決に向けて取り組んでいきたい。
- ・宮古ブロック広域と宮古市中心部の高校の在り方の両方から検討していくことが必要との具体的な御意見をいただき感謝申し上げます。
- ・生徒の意見を取り入れるべきとの御指摘については、7月に中学生へのアンケートを実施し、現在集計中であるので、第3回の地域検討会議ではその結果をお示しし、学校・学科の配置について御意見等を伺いたいと考えている。また、次回の会議では、学校統合等の具体的な資料を示してほしいとの御意見も頂いていたので、いくつかの具体例を用意してより具体の御意見をいただけるように検討したい。

【巖岩 田野畑村教育委員会教育長】

- ・田野畑村からは、岩泉高校に3分の1程度進学している。参考資料6の宮古ブロックと他ブロック間の交流状況で、田野畑村が宮古ブロックへ47.5%、久慈ブロックへ26.7%、盛岡ブロックへ13.3%との状況が示されていたが、遠くの高校に進学させることができる保護者ばかりではないので、教育の機会の保障の観点から高校再編を進めていただければありがたい。
- ・小規模校の課題の一つである教員配置に限られるというデメリットの克服手段として、ICTの活用を検討してもよいのではないかと。また、岩手県立大学の入学枠の拡大を検討する等、小規模校からでも高等教育機関へ進学できる体制ができれば、生徒の進学意欲が高まっていくのではないかと感じている。高校再編にあたり校舎制についても示されたので、そういった方法も十分検討し生かしていただきたい。

【県教委】

- ・ICTを活用した遠隔授業については、小規模校の教育の質の保証という点で選択肢に入っているので、今後、導入に向けて検討を進めようとしているところである。

(次頁に続く)

- ・小規模校からの大学進学については、生徒一人ひとりにきめ細やかな指導ができる小規模校のメリットを生かし、AO入試や推薦入試で進学できる体制になっている。

【吉水 宮古商工会議所専務理事】

- ・少子化の進行により、高校再編を検討しなければならないことは理解している。ただ、宮古ブロックは被災地でもあり復興途上であることから、当面は、現在の高校配置を維持していただきたいと考えている。

【中居 岩泉町副町長】

- ・説明にあった島根県の取り組み事例は、高校の魅力をいかに高めるかという点で大いに参考になった。岩泉町でも、岩泉高校の存続のため年間約4千万円の支援を行っている。岩泉高校は地理的な条件から、校舎制は難しいのではないかと感じている。仮に岩泉高校がなくなれば、保護者の経済的な負担が増え高校に進学させることができなくなることが懸念される。そういったこともあり、岩泉町では岩泉高校の存続に向けて様々な支援を実施しているところであり、今後も継続していきたいと考えている。
- ・岩泉町では地方創生との関係で、人口減少社会に対応した総合戦略の策定を進めているところであり、その中では、岩泉高校の存続が前提となっている。いつ再編計画が示されるかわからないが、こういった地域事情を十分考慮していただき検討を進めていただきたい。

【石原 田野畑村長】

- ・現在、国では高齢者が移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援サービス等を受けながら生涯学習や社会活動等に参加するような共同体（CCRC）の構想を打ち出ししている。その中で全国の住みやすい地域はどこか指定をしていたが、岩手県では盛岡地域だけであった。極論を言えば、高校再編もこの考え方でいくと盛岡に高校があればよいということになる。高校再編を考える場合は、そういう考えではなく、別枠で考えていくことが必要になってくる。特に宮古ブロックにおいては、一定の期間、地域や学校の努力の状況を見て、次の段階を検討していくべきと考えている。
- ・地域文化の継承に高校の果たす役割は大きい。単に生徒の数だけで高校再編を進めることのないようお願いしたい。

【県教委】

- ・当地域は復興の最中であるという御意見をいただいたが、当然そういった復興や公共交通機関の復旧状況等を十分踏まえたうえで検討していかなければならない。
- ・地方創生の関係で、各市町村では定住対策等、様々な取り組みをしているところは当方としても認識しているところである。本日紹介した、島根県海士町と隠岐島前高等学校の取り組みは、単に高校の存続ということではなく、移住や定住の促進等、地域の産業振興の一環として高校の魅力づくりに取り組んでいる例として示したものである。
- ・高校の配置については、県内9ブロックにおいて、普通科や専門学科等をバランス良く配置することを第一に考えているものである。しかし、少子化は進んでおり、盛岡ブロックでもこれまで他ブロックから転入していた数を上回るような減少が見込まれている。それぞれの地域事情を十分考慮し検討していきたい。

【小林 田老町漁業協同組合代表理事組合長】

- ・少子化は進行しているが、生徒一人ひとりに対して、きめ細やかな指導が出来る小規模校をもうし
- (次頁に続く)

ばらくの間、残してほしい。通学支援については、宮古ブロック内で同じような取り組みをしていただければ生徒にとって良いのではないかと感じている。

- ・小規模校は生徒が少ないため、諸会費等が少なく活動に制約があると感じている。
- ・海士町には震災前に視察に行った。平成 24 年には、海士町役場の方々が田老漁業協同組合のブランド化の取り組みについて視察に来たことがあり、その中で、海士町の取り組みを伺ったところ、先ほど説明があったように産業振興に力を入れているとのことであった。海士町の取り組みはなかなか真似出来るものではないが、人口減少対策や地域の再生に向けた取り組みとして参考になると感じている。

【戸田 宮古市PTA連合会母親委員】

- ・宮古ブロックは普通高校や水産、工業、商業の専門高校がバランス良く配置されており、このままの体制を維持してほしいと考えている。地域の人材育成に密接に関わっている専門高校は存続してほしいが、生徒の減少により難しいのであれば、学科として残してほしい。特に宮古工業高校は宮古管内への就職率が高く地域の復興にも深く関わっている。また、津波模型の製作を通して小中学校とも連携しており、地域の人材育成には欠かせない高校であると感じている。
- ・高校再編と併せて子育てしやすい環境と宮古に若者が定住するような政策を行政と連携して進めていただければありがたい。
- ・高校再編にあたっては通学に対する支援も検討していただきたい。

【佐々木 岩泉町PTA連合会会長】

- ・校舎制の説明を受けて、宮古ブロックはこのような感じになるのではないかと思った。岩泉町の中学生の中には宮古高校や盛岡の高校ではなく、海外留学が出来る岩泉高校に進学を希望し入学している生徒がいる。これからも岩泉高校の魅力を高めるため、岩泉町と連携して様々な取り組みを行っていただきたい。
- ・今後、高校再編を進めるにあたり、教育の機会の保障にウエイトを置いた検討を進められることと思うが、市町村の支援がなければ県では教育の機会の保障はしないという立場なのか気になる場所である。県が市町村にお願いするものなのか、市町村が県にお願いするものなのか伺いたい。市町村は地域の人材を育成する地元の高校は存続したいという立場であるので、そういったことをくみ取っていただき検討を進めてほしい。

【県教委】

- ・教育の機会の保障に関わる市町村との連携については、県から市町村に対し強制的に支援を求めるものではない。地域の高校を魅力あるものにしていくために、主体的に各市町村から支援していただいているところであり、岩泉町からも岩泉高校に対して様々な支援をいただいていることは皆さん御承知のことと思う。葛巻町でも県外からの入学生を受け入れるため、山村留学制度を導入し平成 27 年度から受け入れを始めた。通常であれば、県外からの受け入れは一家転住が原則であったが、葛巻町では、町が生徒の受入態勢をとるということで認めたところである。こういったアイデアがあれば、各市町村と相談しながら検討を進めて参りたい。ただ、このような取り組みをしたからといって、直ちに成果が出るとはいえない。本年、葛巻高校に県外から入学した生徒は 1 名である。

【小林 山田町立山田中学校PTA会長】

- ・山田町の副町長が話したとおり、山田町の中学校からは3分の2の生徒が宮古市内の高校に、3分
- (次頁に続く)

の1の生徒は山田高校に進学する状況は、以前から変わっていない。中学生の意見を聞くためにアンケートを実施するとのことであったが、アンケートの中に「地元の高校の存続には何が必要か」といった一般的な項目を入れ、小規模校に対する評価を聞いても良いのではないか。

- ・生徒が少なくなっていく中、各高校の魅力づくりを進めると結果的に生徒の奪い合いにつながる。子どもを産む世代の環境づくりも含め行政で考えていただきたい。

【県教委】

- ・中学生へのアンケートについては、既に7月に実施したところである。調査内容は、中学校卒業後の進路とその理由、高校進学予定者の希望学科、高校への通学範囲と時間、学校の規模、高校卒業後の進路等10問としている。平成20年12月に実施した方法とあまり大きく変えないようにとの配慮から、県内の165校、約4,500人に対して抽出調査を実施し、抽出率は40%弱となっている。公表については、平成20年12月に実施したアンケートとの対比ができるように、ブロック毎に中学生が希望する学科等について取りまとめたと考えている。前回、平成20年のアンケート調査で宮古ブロックは商業科の希望が他ブロックより高いのが特徴であった。次回の第3回地域検討会議では、こういった点も含めお示ししたい。

【佐々木 宮古地区中学校長会代表】（宮古市立宮古第一中学校長）

- ・宮古管内の中学校3年生は、7月中旬に各高校の体験入学に参加したところである。中には複数の高校の体験入学に参加した生徒もいた。体験入学について保護者に説明している中で、保護者から高校在学中にその高校がなくなることはないのかという問い合わせが担任にあった。それに対し、岩手県の高校はそのようなことは絶対に無いと答えるよう指示した。間もなく2学期がはじまり、高校進学に向けて保護者への説明等、具体的な指導が始まる。新聞報道等で高校再編についての話題が度々載るので、これから高校進学を迎える保護者の方々は不安に感じていると思う。保護者に対して正確な情報をタイムリーに伝えていきたいので、県教委からも情報発信していただければ幸いである。